

寄 附 講 座 の 概 要

1 部局名

千葉大学大学院医学研究院

2 寄附講座の名称

分子病態内科学寄附講座

3 設置期間

令和2年5月1日 ～ 令和6年3月31日

4 担当教員名及び職名

特任教授 井上 聡

特任准教授 佐久間 一基

特任助教 河野 貴史

5 寄附講座の教育研究領域の概要（カリキュラムを含む。）

国立大学の代表たる千葉大学は、世界水準の卓越した教育研究活動を展開し、千葉圏を包含する形で国際的な研究・臨床・教育の拠点を形成することが期待されている。しかしながら、日本の大学の国際競争力の落ち込みが懸念される中で、医学分野においても深刻な研究力低下、研究者・研究医の減少トレンドにあるのが現状である。従って、指定国立大学法人を目指す千葉大学にとって、優秀な人材を引きつけ、基礎と臨床の強化を図り、社会からの評価と支援を得るという好循環を実現する戦略性と実効性を持った取り組みを具体的に、かつ、早急に示すことが求められている。一方で、医学・医療の視点から捉えてみれば、超高齢化社会の到来と地域社会の過疎化を背景として、地域医療の衰退と医師偏在問題が挙げられる。これらの対策として、千葉の医療圏においてもこれまでにいろいろな施策が実施されてきたが、地域医療は地域病院、先端医療と研究は大学、地方行政は地方公共団体という縦割りの壁も相まって、根本的な問題解決には至っていないのが実情である。「国」「地方」「民」が一体となって、健康長寿社会の形成を目指した次世代の医学・治療学研究の発展と地域医療を担う医療人育成に資する新たなシステムの構築が希求されている。つまり、従来の枠組みを超えて、地域基幹病院及び地方公共団体・コミュニティーが国立大学研究機関と一致協力して、先端研究と地域医療の現場の間で「知」と「人」を循環させながら、グローバルに通用する研究基盤と医療人育成システムを醸成していく必要がある。言い換えれば、地域医療の実情を深く理解しながらグローバルに活躍できる素養を合わせ持った次世代のリーダーシップを担う Physician Scientist を継続的に育成できる基盤を作り出すことが、研究医育成と地域医療対策の両立に向けた新たな礎となりうる。

このような背景の中、千葉大学大学院医学研究院分子病態解析学は、基礎研究と臨床の架け橋的講座としての特性を活かし、がんと免疫・内分泌/生活習慣病などの代謝内分泌疾患・血管や心筋などの循環器疾患・エイジングや加齢関連疾患を対象に分子病態解明を主なミッション

として、先端的基礎研究及び国際共同研究を推進してきた。その特色として、講座の教官は、薬学・理学の背景を持つ基礎研究者と各種内科系専門医（総合内科専門医、循環器専門医、内分泌専門医、糖尿病専門医、甲状腺専門医、臨床医検査専門医等）を有する研究医から構成されている。加えて、実臨床フィールドで見いだされた内分泌疾患難治症例や診断に難渋する症例に対してゲノム解析や分子病態解析の支援、地域基幹病院と連携して後方視的コホート研究の推進など、基礎と臨床の橋渡しとして地域医療の質の向上を図ることで地域住民の健康と福祉に重要な役割を果たしてきた実績を有している。

そこで、本寄附講座では、千葉県における研究医養成と地域医療人育成の両立に資するべく、千葉大学大学院医学研究院分子病態解析学講座とその共同研究機関（人工知能（AI）医学、かずさDNA研究所、京都大学腫瘍生物学、九州大学生体防御医学研究所生体多階層システム研究センター・プロテオミクス分野、東京都健康長寿医療センター研究所、Yale University のDiabetes Research Center, California Institute of Technology のDivision of Biology & Biological Engineering, Columbia University のBiological Sciences 等）や関連医療機関（虎ノ門病院、東邦大学附属病院佐倉医療センター等）により築かれてきた体制を基盤に、地域自治体と地域基幹病院が連携し、研究医を志す若手医師及び指導医のアカデミアキャリアをサポートする研究活動拠点を形成する。同時に、それらの優秀な研究医たちがプライマリケアと地域医療を一定期間スキルアップできる実践的臨床フィールドをカップリングさせることで、研究指向型医療人育成の新たな枠組みの構築を目指す。臨床と研究の人的循環サイクルの中で、分子病態内科学の最先端研究や地域医療を対象としたAIコホート研究を推進することで、地域医療を実践し深く理解できる素養を合わせ持った次世代の研究指向型医療人育成と地域医療対策に資する新しいモデルを創生することが狙いである。